

2021年度 大会シンポジウム企画

防災特別委員会キックオフシンポジウム～災害の時代に都市計画はどう備えるか～

2011年に設置された「防災復興研究特別委員会（委員長・鳴海邦碩）」の後継として、2021年度に新たに「防災特別委員会（委員長・森本章倫（早稲田大学）」を設置しました。活動期間は10年とし、当面3年間は、4つの部会と1つのタスクフォース(TF)の体制で活動を行います。

気候変動に伴う水害の激甚化、頻発化、切迫する南海トラフ地震や首都直下地震、コロナ禍等、災害の時代に入ったともいえます。都市計画でも積極的に自然災害リスクを制御していく必要があります。一方、東日本大震災の復興では多様な課題が露呈しました。東日本大震災の復興を改めて検証し、次の災害復興に向けて知見を積み上げる必要があります。また、未だ現在進行形である原発事故被災地の復興もフォローする必要があります。本シンポジウムでは、委員会の活動方針を示した上で、都市づくりの総合性を勘案しつつ、災害にどう備えるかを議論します。

登壇者報告資料は都市計画学会大会&防災特別委員会シンポジウム HP よりダウンロードできます。

<http://www.cpij.or.jp/com/rev/20211107sympo.html>

開催日時：2021年11月7日(日) 15:00～17:30

会場：松山市立子規記念博物館 ※ハイブリッド（対面会場+Zoom ウェビナーにて開催します）

プログラム

（総合司会）市古太郎（幹事長・東京都立大学）

15:00 開会挨拶 出口敦 氏（日本都市計画学会・会長，東京大学）

15:10 「防災特別委員会の設置経緯と概要」 森本章倫 氏（防災特別委員会委員長，早稲田大学）

15:15 各部会の活動方針と論点（10分×5）

想定される巨大災害に備える～南海トラフ，首都直下地震～

牧紀男 氏（第1部会部会長，京都大学）

気候変動に適應する～水害の激甚化・頻発化～

加藤孝明 氏（第2部会部会長，東京大学）

大規模人為災害に備える～原発被災地からの復興と備え～

川崎興太 氏（第3部会部会長，福島大学）

次の災害復興へ備える～東日本大震災復興の検証と次に向けた教訓の抽出～

姥浦道生 氏（第4部会部会長，東北大学）

with/Post コロナ時代の都市研究～新たな都市リスク～

廣井悠 氏（コロナ TF 長，東京大学）

16:05 休憩

16:15 パネルディスカッション：災害リスク低減における都市計画の役割を考える新たな視点

パネリスト 牧紀男氏・川崎興太氏・姥浦道生氏・廣井悠氏・市古太郎氏

コーディネータ 加藤孝明 氏（副委員長・東京大学生産技術研究所）

17:20 まとめと閉会挨拶：服部卓也氏（副委員長，国土交通省）

登壇者（各部会の部会長等）のプロフィール

第1部会: 牧紀男氏(京都大学)

京都大学防災研究所教授。博士（工学）。著書に「復興の防災計画」「災害の住宅誌」（鹿島出版会）、「組織の危機管理入門—リスクにどう立ち向えばいいのか（京大人気講義シリーズ）」（丸善）、「はじめて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版）他。多くの自治体の防災計画策定に関わる。

第2部会: 加藤孝明氏(東京大学)

東京大学生産技術研究所教授・社会科学研究所特任教授。博士（工学）。社会資本整備審議会都市防災マネジメント小委員会、気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会、国交省水災害対策とまちづくりの連携のあり方検討会委員等。地域安全学会論文賞、都市計画家協会楠本賞、地区防災計画学会論文賞他。地域づくりの先駆的モデル構築を行う。携わる地域はレジリエンスアワード2018グランプリ、防災まちづくり大賞総務大臣賞受賞。

第3部会: 川崎興太氏(福島大学)

福島大学共生システム理工学類教授。博士（工学）。著書に、『福島復興10年間の検証』（川崎興太編、2021年、丸善出版）、『福島の除染と復興』（川崎興太著、2018年、丸善出版）、『環境復興』（川崎興太編、2018年、八朔社）など。福島県復興計画の委員長、浪江町復興計画の委員長などを務める。

第4部会: 姥浦道生氏(東北大学)

1973年生まれ、富山県出身。2003年東京大学大学院博士課程満期退学。博士（工学）。豊橋技術科学大学COE研究員、大阪市立大学助手、東北大学准教授等を経て、2020年より東北大学教授。専門は土地利用計画・制度論。東日本大震災の復興には、石巻市を中心として関わったほか、国土交通省、復興庁等の復興関連の各種委員会の委員を務めた。

コロナタスクフォース: 廣井悠氏(東京大学)

東京大学大学院工学系研究科教授。1978年生まれ。東京大学大学院工学系研究科特任助教、名古屋大学減災連携研究センター准教授、東京大学工学系研究科准教授を経て現職。博士(工学)、専門は都市防災。2016年度東京大学卓越研究員、2016-2020年JST さきがけ研究員(兼任)。受賞に文部科学大臣表彰若手科学者賞、都市住宅学会学会賞、前田工学賞など。主な著書に「知られざる地下街 歴史・魅力・防災、ちかあるきのススメ」など。

副委員長: 服部卓也氏(国土交通省)

国土交通省都市局都市安全課長。平成3年建設省に入省。以降地方自治体等への出向を経て現在に至る。東日本大震災時は都市安全課にて復興関係の制度構築や被災自治体への支援を実施。現在は、流域治水や事前復興に係る計画づくり等の推進に取り組む。

幹事長: 市古太郎氏(東京都立大学)

東京都立大学都市政策科学科教授。博士（都市科学）。共著に『東日本大震災合同調査報告書 建築計画』『都市周縁コミュニティの再生術』（近刊）。日本都市計画学会論文賞受賞（2021年）。東京の木造住宅密集地域および郊外市街地での事前復興まちづくり研究に取り組む。